

巻頭言

「炭酸泉誌第4巻第1号」発刊にあたって

北里大学東病院リハビリテーション科
前田真治

炭酸泉研究会も多くの念を重ね数々の研究成果が発表されてまいりました。炭酸泉については従来から様々な研究がなされ、高血圧や心臓病、褥瘡などに効果があることは知られていました。しかし、純粋な高濃度炭酸温水による研究は諸外国では例がなく、本邦で独自に発達した分野であることは、会員諸氏の研究努力のたまものであると思われまふ。本研究会の成果は本邦のみならず、最近では2002年にハンガリーで開かれた第34回国際水治・気候療法学会 (34thISMH : International Society of Medical Hydrogy and Climatology) にも数台の演題が出され世界各国の研究者から注目を浴びたことは記憶に新しいことであります。

当研究会が主なる研究対象としている高濃度にCO₂の溶解した温水は、皮膚から吸収され極所的に組織炭酸ガス濃度を強力に上昇させます。その結果、その部位の血流を良好にするよう反応します。このような現象を利用して多くの症状の改善に結びつかせています。これら基礎・臨床研究の結果は純粋な研究が可能で根拠のある実証 (EBM : Evidence Based Medicine) として確立されてきています。具体的な臨床応用として閉塞性動脈硬化症 (arteriosclerosis obliterans : ASO) や熱傷への顕著な修復効果、関節リウマチなど疼痛性疾患に対する疼痛除去効果などが上げられ、それぞれ実践されています。また、これらの炭酸泉の効果は徐々に民間にも広まりつつあり、一般入浴施設などにも普及してきており多くの人々にも利用可能になってきています。

このように有用な人工炭酸泉の普及は、我が国の健康志向にも合致するものであり、高血圧に対する降圧効果や糖尿病などに対するエネルギー消費効果など、生活習慣病を改善することも可能にする一つの方法であると考えられます。そして厚生労働省の一つのスローガンである健康日本21の「より健康に生きる」「健康に老いる」といった目標にも役立ち、国民の健康向上の一助にもなるものと思われまふ。これら人工炭酸泉の研究・実践が日本国民のみならず世界人類のために貢献できることが本誌の目標の一つと思われ、より一層の発展が望まれるところであらうと思われまふ。